

令和4年度 瑞浪市 介護に関するアンケート調査報告書概要

1 調査の概要

(1) 調査の目的

「第9期瑞浪市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定業務」の策定にあたり、今後の保健福祉行政に役立てるために、市民の皆様の普段の生活や健康などに関して調査を実施するものです。

(2) 調査対象・回収等

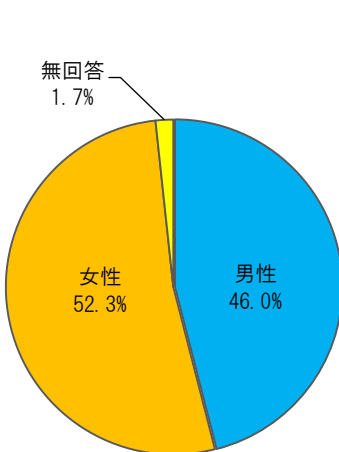
	介護予防・日常生活支援ニーズ調査	在宅介護実態調査	介護支援専門員アンケート調査	介護事業所アンケート調査
調査対象	瑞浪市に在住する65歳以上の市民	介護認定の更新・変更申請を行った在宅の要介護認定者及びその介護者	瑞浪市内すべての事業所にお勤めの介護支援専門員	瑞浪市内すべての介護事業所
配布・回収方法	対象者へ郵送にて調査	郵送または調査員による直接聞き取りにて調査	事業所へ郵送にて調査	
調査期間	令和4年12月16日～令和5年1月16日	令和4年12月16日～令和5年1月31日	令和4年12月9日～令和5年1月16日	
配布数(A)	1,000通	800通	49通	55通
回収数(B)	641通	558通	46通	37通
回収率(B/A)	64.1%	69.8%	93.9%	67.3%

2 調査結果

(1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

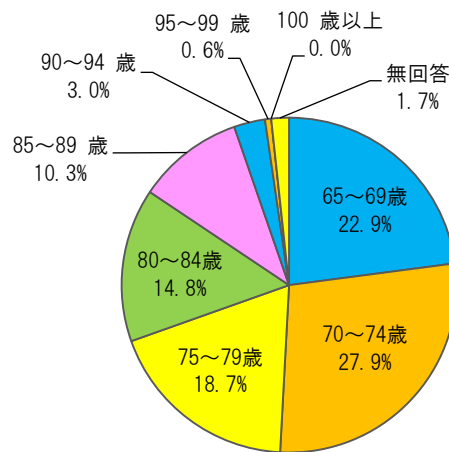
① 回答者の属性

■ 性別



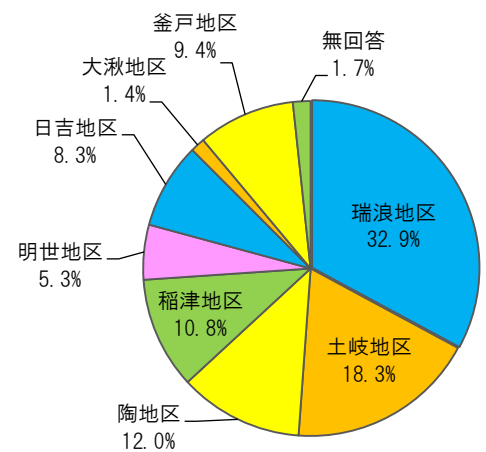
令和4年度 n=641

■ 年齢



令和4年度 n=641

■ 居住地区



令和4年度 n=641

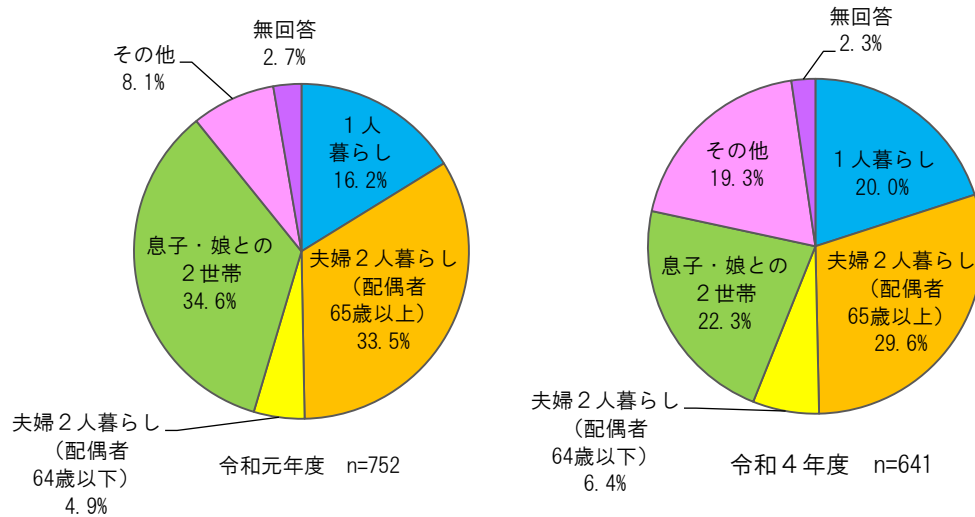
■地区別・圏域別年齢分布

単位 上段（人）、下段（％）

	合計	65 ～ 69 歳	70 ～ 74 歳	75 ～ 79 歳	80 ～ 84 歳	85 ～ 89 歳	90 ～ 94 歳	95 ～ 99 歳	100 歳 以上	無回答
全体	641	147	179	120	95	66	19	4	-	11
	100.0	22.9	27.9	18.7	14.8	10.3	3.0	0.6	-	1.7
瑞浪地区	211	55	57	35	31	23	6	1	-	3
	100.0	26.1	27.0	16.6	14.7	10.9	2.8	0.5	-	1.4
土岐地区	117	21	35	25	19	13	4	-	-	-
	100.0	17.9	29.9	21.4	16.2	11.1	3.4	-	-	-
陶地区	77	18	25	14	11	5	3	1	-	-
	100.0	23.4	32.5	18.2	14.3	6.5	3.9	1.3	-	-
稲津地区	69	12	25	14	7	8	3	-	-	-
	100.0	17.4	36.2	20.3	10.1	11.6	4.3	-	-	-
明世地区	34	12	6	5	6	5	-	-	-	-
	100.0	35.3	17.6	14.7	17.6	14.7	-	-	-	-
日吉地区	53	12	11	9	8	10	2	1	-	-
	100.0	22.6	20.8	17.0	15.1	18.9	3.8	1.9	-	-
大湫地区	9	4	2	1	1	-	1	-	-	-
	100.0	44.4	22.2	11.1	11.1	-	11.1	-	-	-
釜戸地区	60	13	17	16	11	2	-	1	-	-
	100.0	21.7	28.3	26.7	18.3	3.3	-	1.7	-	-
瑞浪南部圏域	357	85	107	63	49	36	12	2	-	3
	100.0	23.8	30.0	17.6	13.7	10.1	3.4	0.6	-	0.8
瑞浪北部圏域	273	62	71	56	45	30	7	2	-	-
	100.0	22.7	26.0	20.5	16.5	11.0	2.6	0.7	-	-
無回答	11	-	1	1	1	-	-	-	-	8
	100.0	-	9.1	9.1	9.1	-	-	-	-	72.7

②家族構成

- 家族構成をみると、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」（29.6%）が最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」（22.3%）、「1人暮らし」（20.0%）となっています。
- 前回調査と比較すると、「1人暮らし」「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」「その他」が増加し、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」「息子・娘との2世帯」が減少しています。



③通いの場等への参加頻度について

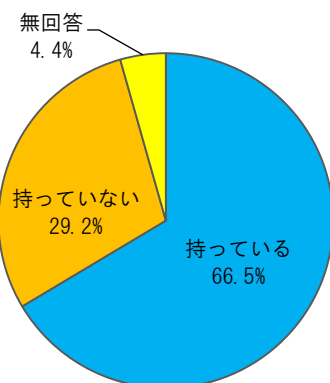
- 通いの場等への参加頻度が「週4回以上」、「週2～3回」、「週1回」、「月1～3回」と回答した方の年齢別割合をみると、「①ボランティアのグループ」、「②スポーツ関係のグループやクラブ」、「③趣味関係のグループ」、「⑦町内会・自治会」、「⑧収入のある仕事」では70～74歳の割合が、「④学習・教養サークル」、「⑤市などが主催する介護予防教室」、「⑥老人クラブ」では75～79歳の割合が最も高くなっています。

単位 (%)

	有効回答数 (件)	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳以上	無回答
①ボランティアのグループ	52	26.9	28.8	25.0	17.3	0.0	1.9
②スポーツ関係のグループやクラブ	121	25.6	28.1	25.6	14.0	5.8	0.8
③趣味関係のグループ	128	21.9	33.6	23.4	13.3	7.0	0.8
④学習・教養サークル	24	20.8	29.2	37.5	12.5	0.0	0.0
⑤市などが主催する介護予防教室	16	6.3	25.0	37.5	12.5	18.8	0.0
⑥老人クラブ	29	3.4	17.2	34.5	27.6	17.2	0.0
⑦町内会・自治会	45	28.9	40.0	20.0	6.7	4.4	0.0
⑧収入のある仕事	158	41.1	41.8	10.8	4.4	1.9	0.0

④スマートフォンを持っているかについて

○スマートフォンを持っている方は 66.5%となっています。



令和4年度 n=641

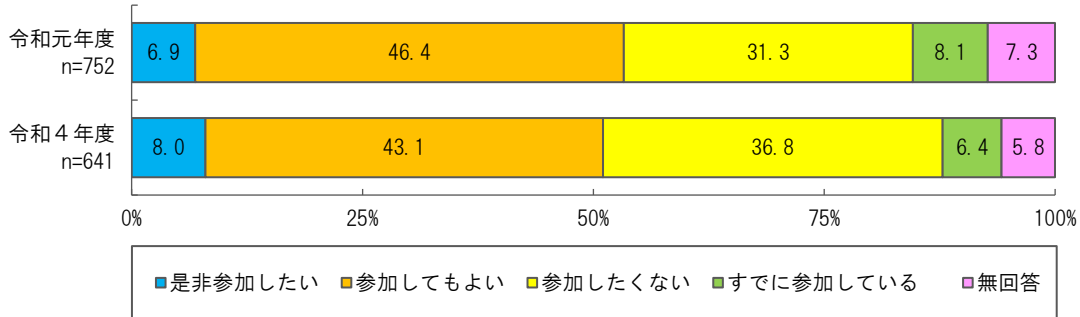
○年代別でみると、年齢が高くなるにつれスマートフォンの所有率が低くなる傾向です。

単位 (%)

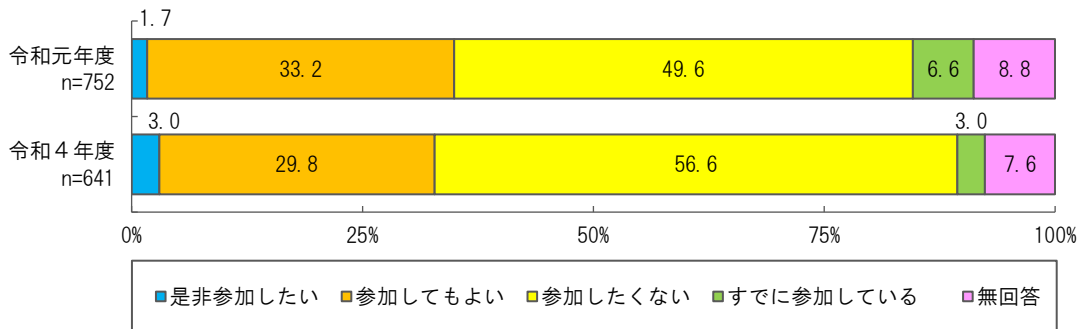
	有効回答数 (件)	持っている	持っていない	無回答
65～69 歳	147	88.4	8.8	2.7
70～74 歳	179	79.9	16.8	3.4
75～79 歳	120	64.2	30.0	5.8
80～84 歳	95	56.8	40.0	3.2
85～89 歳	66	19.7	71.2	9.1
90～94 歳	19	10.5	84.2	5.3
95～99 歳	4	25.0	50.0	25.0

⑤地域づくりに対する参加意向について

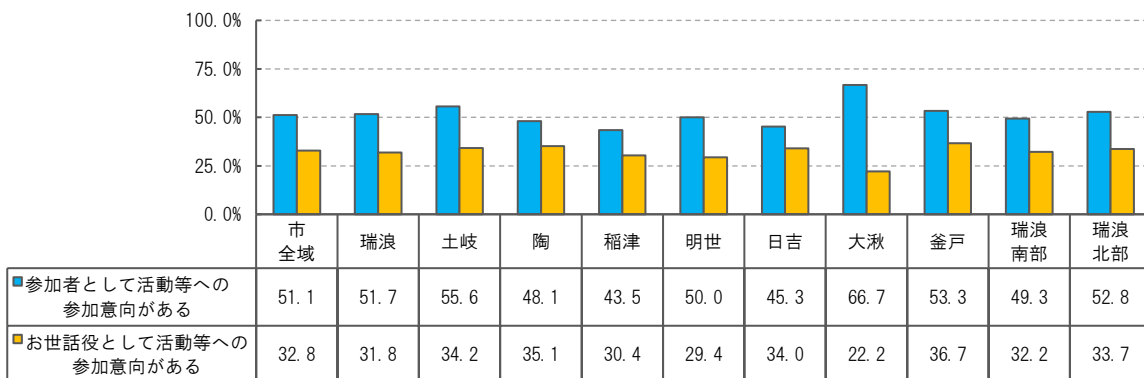
○参加者としてグループ活動等に「是非参加したい」(8.0%)と「参加してもよい」(43.1%)を合わせた51.1%の方に参加意向があります。また、「すでに参加している」が6.4%となっています。
○前回調査と比較すると、参加意向のある方は減少しています。



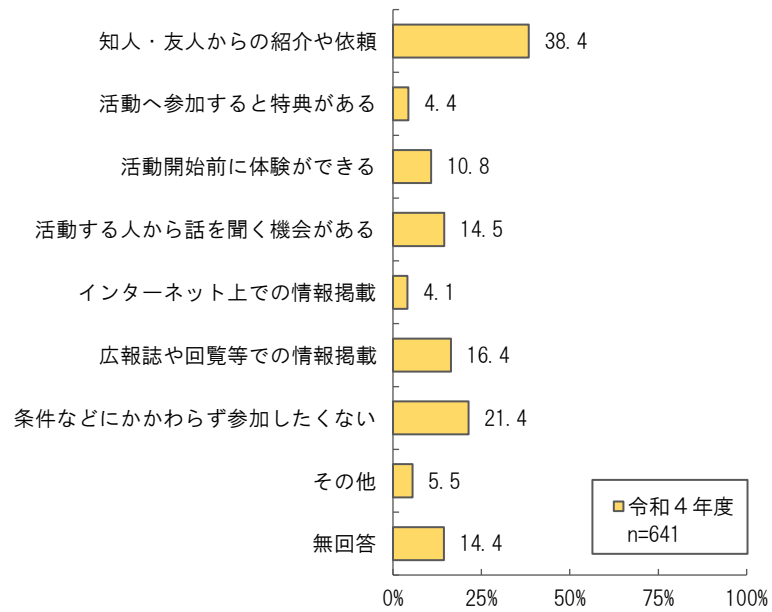
○企画・運営としてグループ活動等に「是非参加したい」(3.0%)と「参加してもよい」(29.8%)を合わせた32.8%の方に参加意向がある一方、「参加したくない」が半数となっています。
○前回調査と比較すると、参加意向のある方は減少しています。



○地域活動に対する参加意向をみると、「参加者として活動等への参加意向がある」では瑞浪地区(51.7%)、土岐地区(55.6%)、釜戸地区(53.3%)、瑞浪北部圏域(52.8%)で市全域(51.1%)より高くなっています。
○お世話役として活動等への参加意向をみると、土岐地区(34.2%)、陶地区(35.1%)、日吉地区(34.0%)、釜戸地区(36.7%)、瑞浪北部圏域(33.7%)が市全域(32.8%)より高くなっています。
※大湫地区は対象者が9名のため、コメントを省略

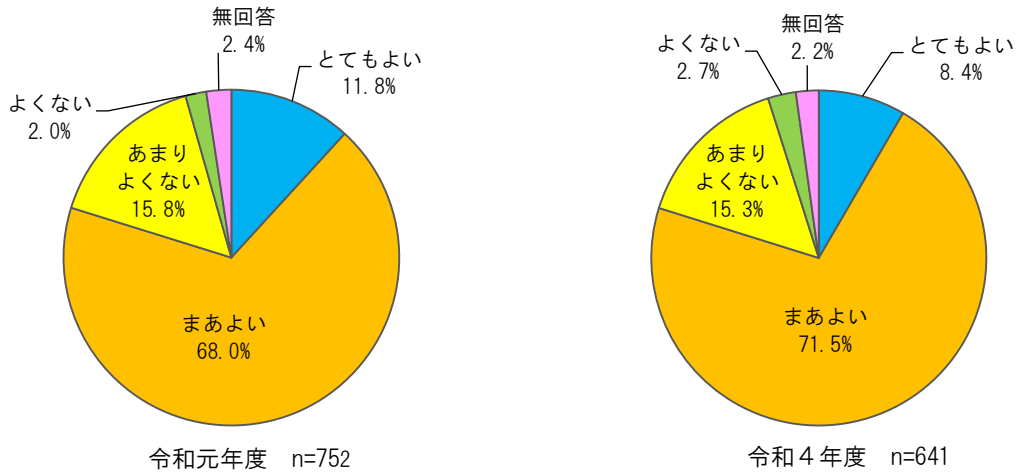


○助け合いの地域づくりを実現するための活動に、どのようなきっかけや条件があれば、参加しようと思うかについてみると、「知人・友人からの紹介や依頼」(38.4%)が最も高く、次いで「広報誌や回覧等での情報掲載」(16.4%)、「活動する人から話を聞く機会がある」(14.5%)となっています。また、「条件などにかかわらず参加したくない」が21.4%となっています。

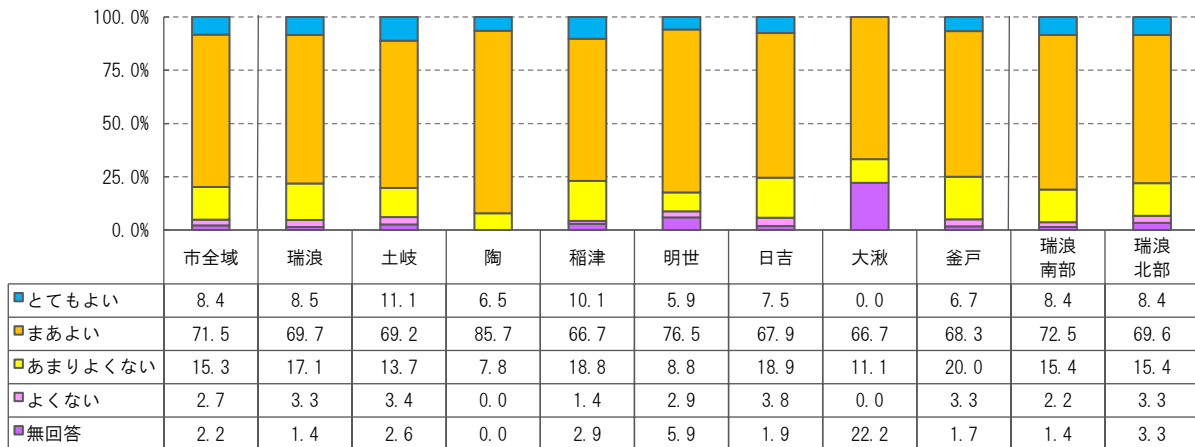


⑥健康状態について

- 現在の主観的健康感をみると、「まあよい」(71.5%)が最も高く、「とてもよい」(8.4%)と合わせた79.9%の方が健康と感じています。
- 前回調査と比較すると、「とてもよい」が減少し、「まあよい」が増加しています。

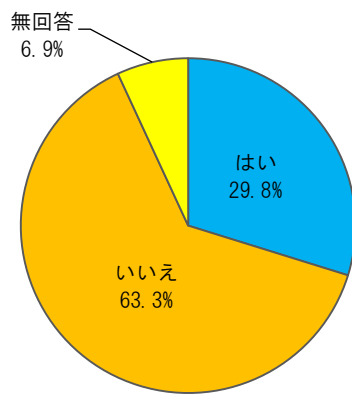


- 地区別・圏域別でも、全体と同様の傾向となっています。
- また、主観的健康感で「あまりよくない」と「よくない」の合計を地区別・圏域別にみると、瑞浪地区、稲津地区、日吉地区、釜戸地区、瑞浪北部圏域で市全域より高くなっています。
- ※大湫地区は対象者が9名のため、コメントを省略

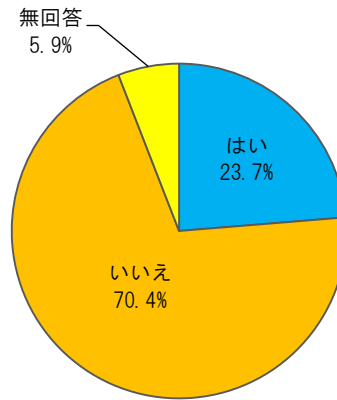


⑦ 認知症について

- 認知症に関する相談窓口について、23.7%の方が知っていると回答しています。
- 前回調査と比較すると、「はい」が減少しています

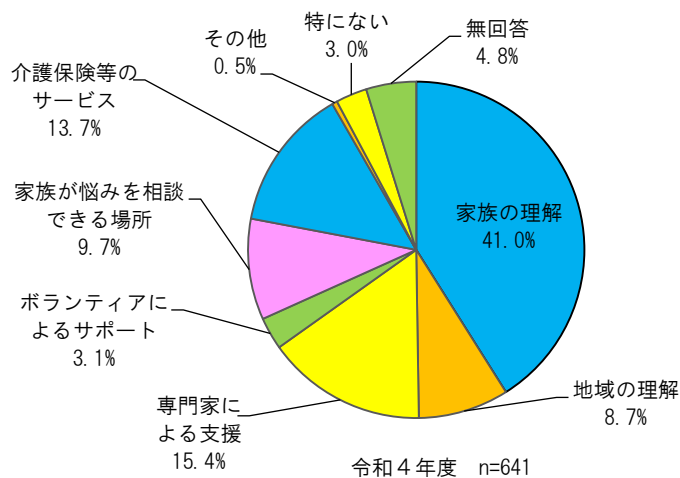


令和元年度 n=752



令和4年度 n=641

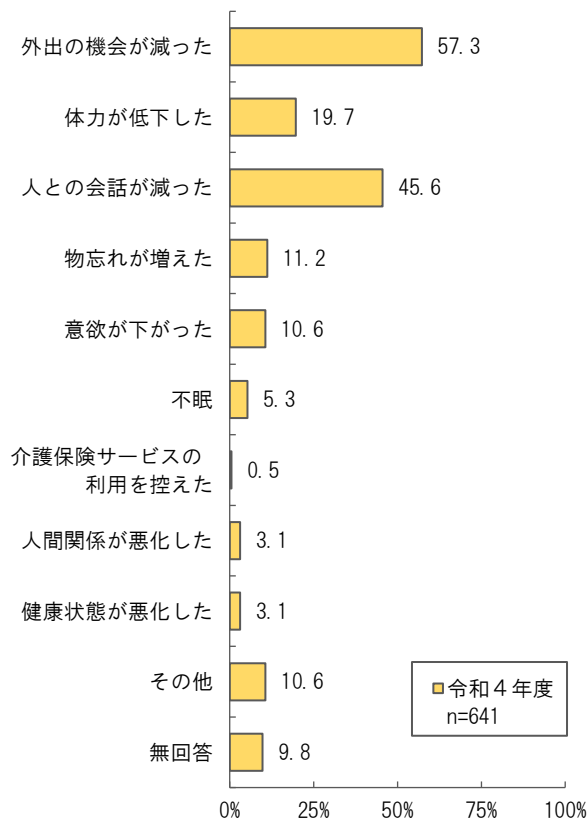
- 認知症になっても地域で暮らし続けるために必要と思うものについてみると、「家族の理解」(41.0%)が最も高く、次いで「専門家による支援」(15.4%)、「介護保険等のサービス」(13.7%)となっています。



令和4年度 n=641

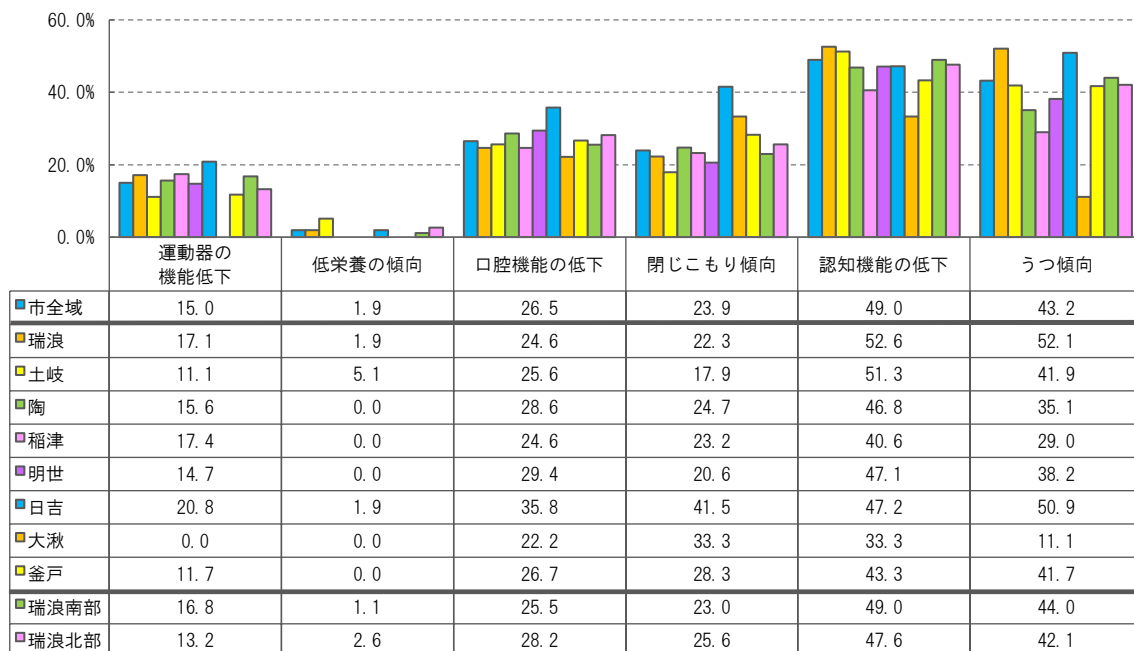
⑧新型コロナウイルス感染拡大による変化について

○新型コロナウイルス感染症により体や心、生活に変化はあったかについてみると、「外出の機会が減った」(57.3%)が最も高く、次いで「人との会話が減った」(45.6%)となっています。



⑨リスクに該当する高齢者の状況

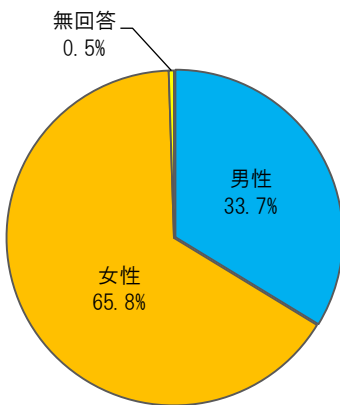
○各リスク該当高齢者の出現率をみると、市全域では認知機能の低下(49.0%)が最も高く、次いでうつ傾向(43.2%)、口腔機能の低下(26.5%)、閉じこもり傾向(23.9%)、運動器の機能低下(15.0%)、低栄養の傾向(1.9%)となっています。



(2) 在宅介護実態調査

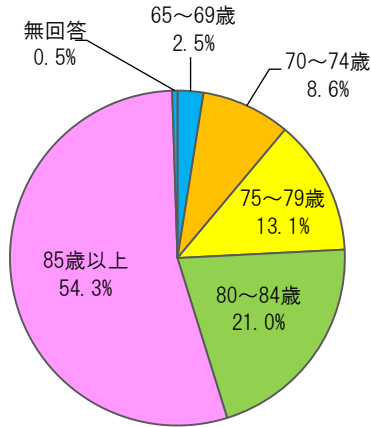
①回答者の属性

■性別



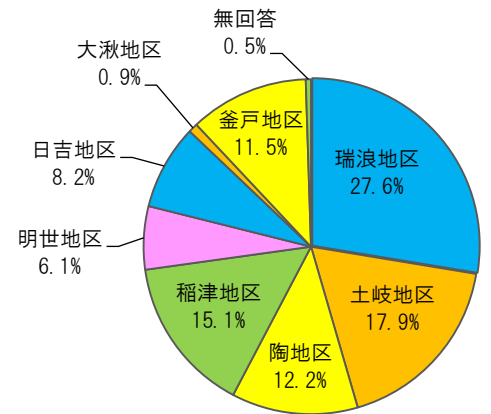
令和4年度 n=558

■年齢



令和4年度 n=558

■居住地区

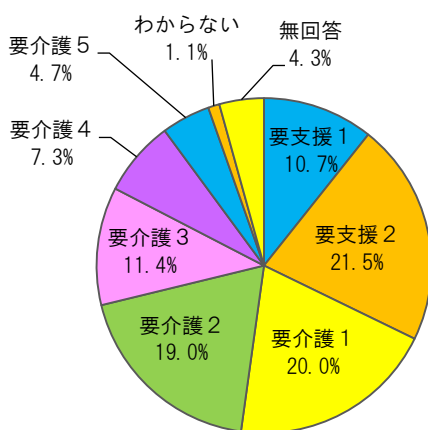


令和4年度 n=558

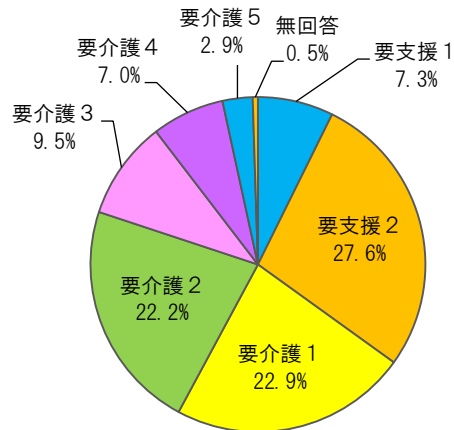
②要介護度

○要介護者の介護度をみると、「要支援2」(27.6%)が最も高く、次いで「要介護1」(22.9%)、「要介護2」(22.2%)、「要介護3」(9.5%)となっています。

○前回調査と比較すると、要支援認定者、要介護1~2が増加しています。



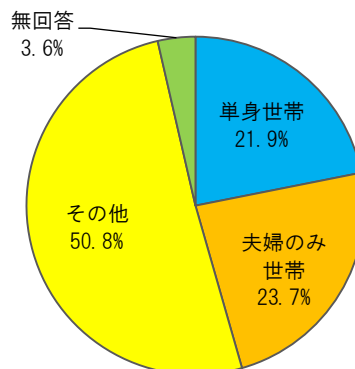
令和元年度 n=559



令和4年度 n=558

③世帯類型

○世帯類型をみると、「夫婦のみ世帯」が23.7%、「単身世帯」が21.9%となっています。また、「その他」の世帯が50.8%と最も高くなっています。



令和4年度 n=558

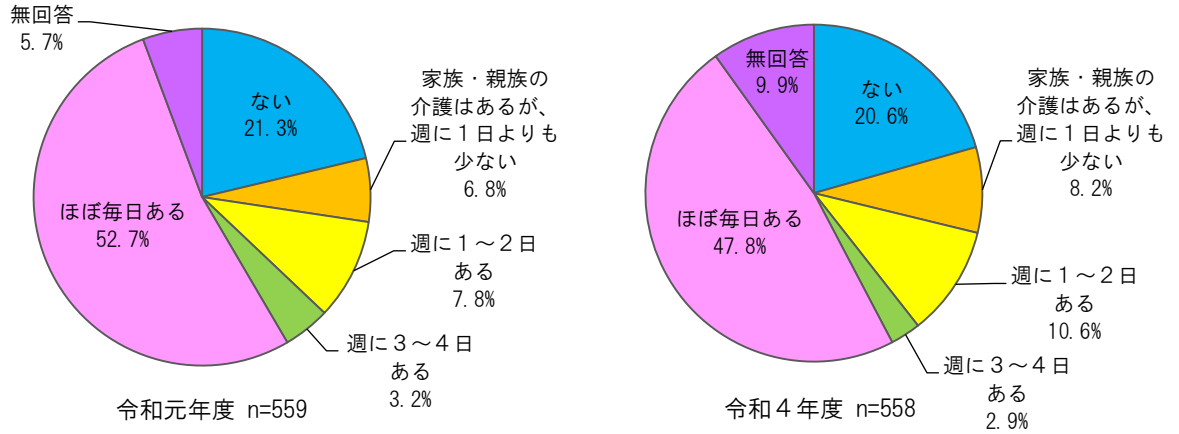
■地区別・圏域別年齢分布

単位 上段（人）、下段（％）

	合計	65 ～ 69 歳	70 ～ 74 歳	75 ～ 79 歳	80 ～ 84 歳	85 ～ 89 歳	90 歳 以上	無 回 答
全体	558	14	48	73	117	162	141	3
	100.0	2.5	8.6	13.1	21.0	29.0	25.3	0.5
瑞浪地区	154	5	21	20	27	40	41	-
	100.0	3.2	13.6	13.0	17.5	26.0	26.6	-
土岐地区	100	1	11	12	25	34	17	-
	100.0	1.0	11.0	12.0	25.0	34.0	17.0	-
陶地区	68	2	1	10	15	25	15	-
	100.0	2.9	1.5	14.7	22.1	36.8	22.1	-
稲津地区	84	2	5	10	28	16	23	-
	100.0	2.4	6.0	11.9	33.3	19.0	27.4	-
明世地区	34	3	6	5	4	9	7	-
	100.0	8.8	17.6	14.7	11.8	26.5	20.6	-
日吉地区	46	1	2	6	7	14	16	-
	100.0	2.2	4.3	13.0	15.2	30.4	34.8	-
大湫地区	5	-	-	1	-	3	1	-
	100.0	-	-	20.0	-	60.0	20.0	-
釜戸地区	64	-	2	9	11	21	21	-
	100.0	-	3.1	14.1	17.2	32.8	32.8	-
瑞浪南部圏域	306	9	27	40	70	81	79	-
	100.0	2.9	8.8	13.1	22.9	26.5	25.8	-
瑞浪北部圏域	249	5	21	33	47	81	62	-
	100.0	2.0	8.4	13.3	18.9	32.5	24.9	-
無回答	3	-	-	-	-	-	-	3
	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0

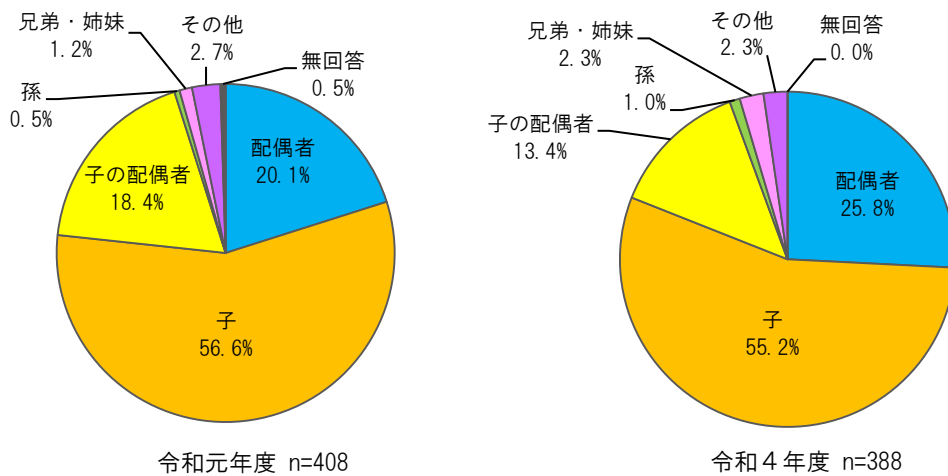
④ 家族・親族から介護してもらう頻度

○家族・親族による介護の頻度をみると、「ほぼ毎日ある」(47.8%)が最も高く、「家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない」「週に1～2日ある」「週に3～4日ある」と合わせると69.5%の方が家族・親族による介護を受けている状況です。
 ○前回調査と比較すると、「家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない」、「週に1～2日ある」が増加しています。



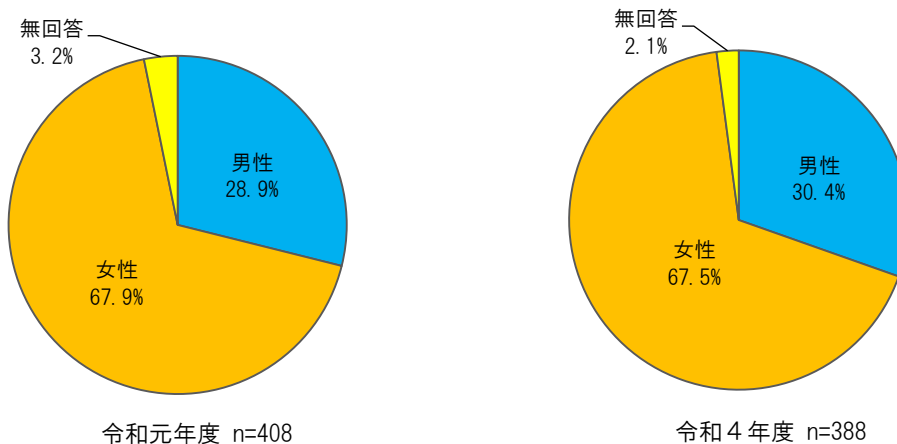
⑤ 主な介護者

○要介護者からみた主な介護者は、「子」(55.2%)が最も高く、次いで「配偶者」(25.8%)、「子の配偶者」(13.4%)となっています。



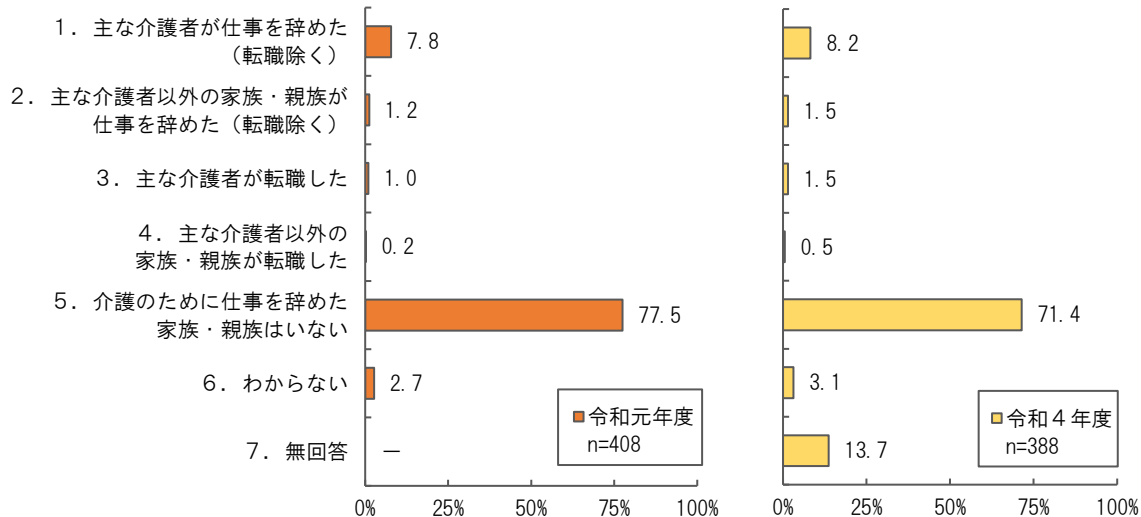
⑥ 主な介護者の性別

○主な介護者の性別は、「女性」(67.5%)が多く、「男性」(30.4%)の2倍以上となっています。

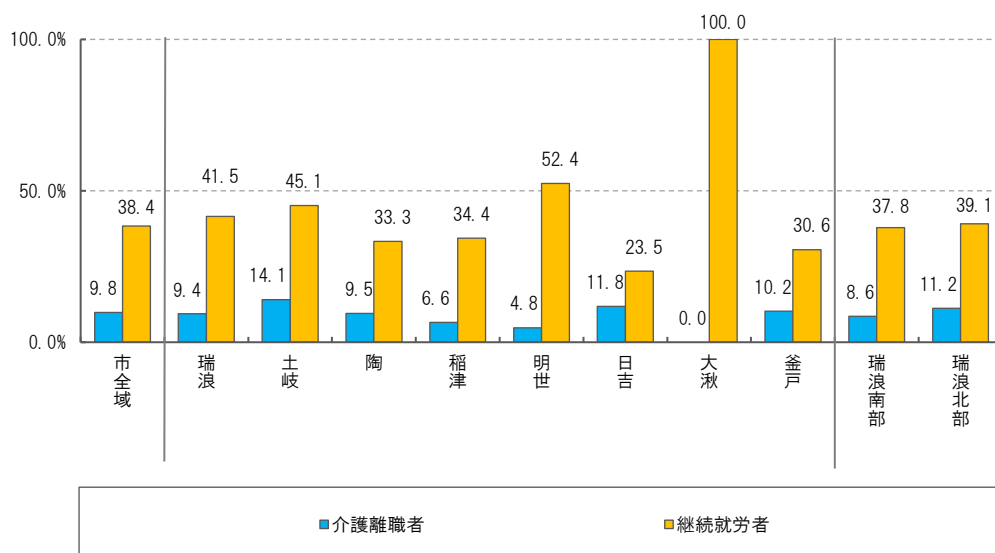


⑦家族・親族の介護による離職・転職状況

- 家族・親族が介護を理由に離職・転職した状況を見ると、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」（8.2%）、「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）」（1.5%）をあわせた9.7%が離職し、2.0%の方が転職しています。
- 前回調査と比較すると、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が増加し、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が減少しています。



- 介護者の離職状況を見ると、市全域では「介護離職者」が9.8%、転職者を含む「継続就労者」が38.4%となっています。
- 地区別・圏域別にみると、介護離職者では土岐地区、日吉地区、釜戸地区と、瑞浪北部圏域で市全域を上回っています。継続就労者では陶地区、稲津地区、日吉地区、釜戸地区と瑞浪南部圏域で市全域を下回っています。
- ※大湫地区は対象者が5人のため、コメントを省略



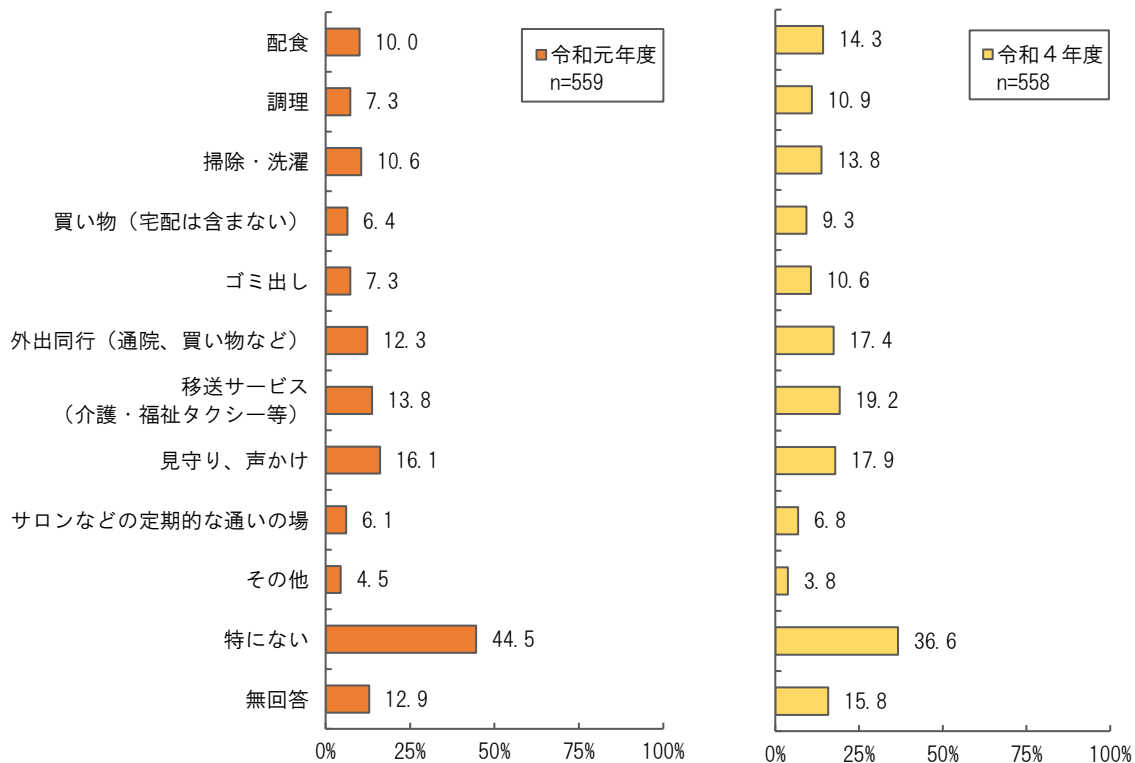
※介護離職者：問11で「仕事を辞めた（転職除く）」と回答（「1」「2」を選択）した方です。

※継続就労者：①問11で「転職した」と回答（「3」「4」を選択）した方と、②問11で「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、問18で「働いている」と回答（「1」「2」を選択）した方の計です。

⑧在宅生活を今後も続けていくために必要な支援・サービス

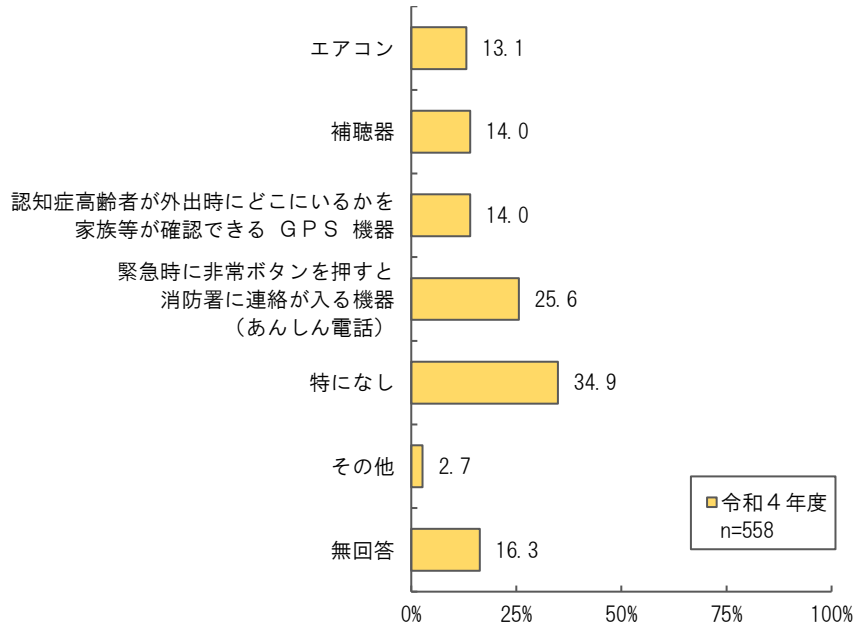
○在宅生活を続けていくために必要な支援・サービスをみると、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（19.2%）が最も高く、次いで「見守り、声かけ」（17.9%）、「外出同行（通院、買い物など）」（17.4%）、「配食」（14.3%）となっています。また、「特にない」は36.6%となっています。

○前回調査と比較すると、「その他」、「特にない」を除くすべての項目で増加しています。



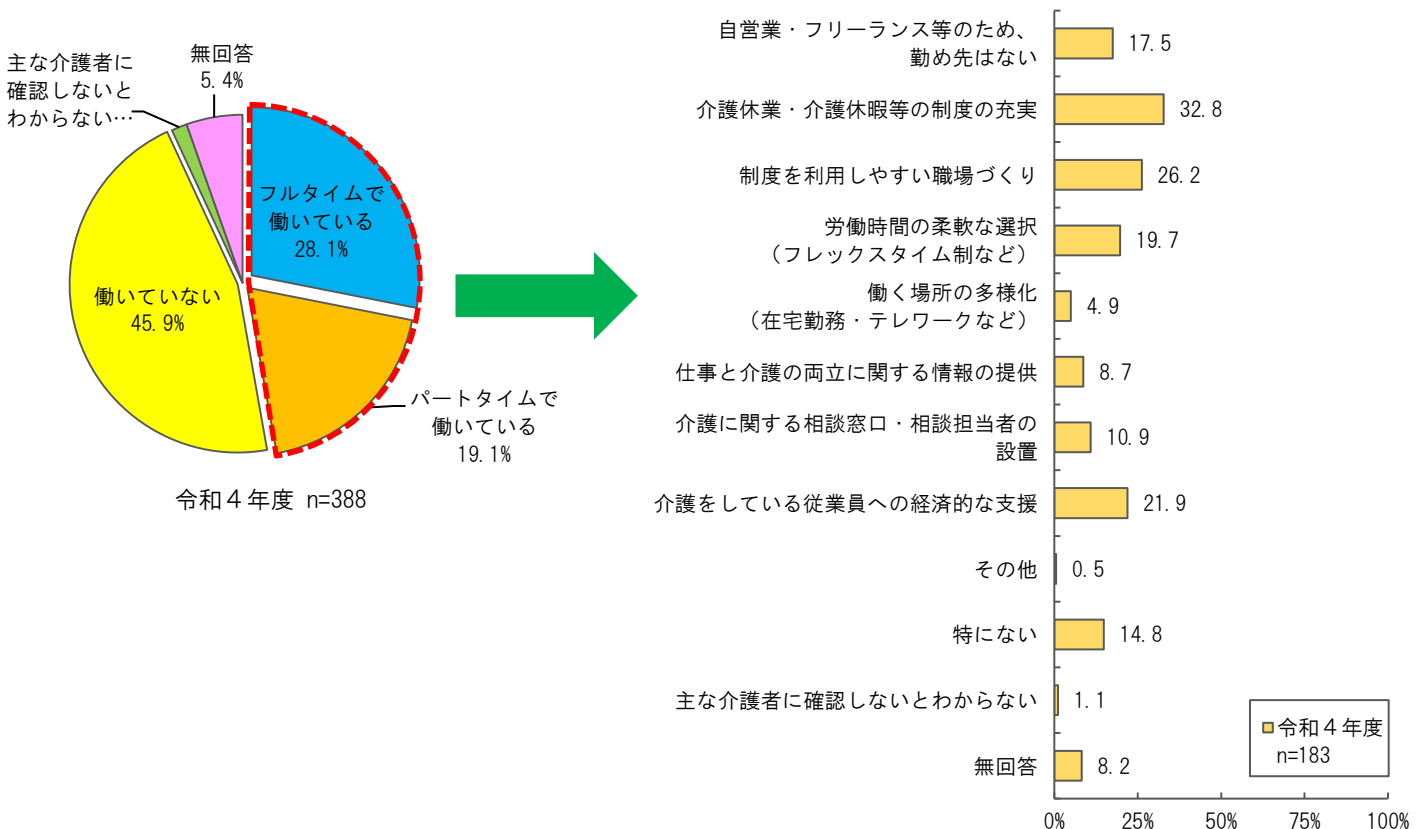
⑨今後の在宅生活の継続に必要と感じる設備・機器

○今後の在宅生活の継続に必要と感じる設備・機器についてみると、「緊急時に非常ボタンを押すと消防署に連絡が入る機器（あんしん電話）」(25.6%)が最も高く、次いで「補聴器」、「認知症高齢者が外出時にどこにいるかを家族等が確認できるGPS機器」(各14.0%)となっています。また、「特になし」は34.9%となっています。



⑩主な介護者の現在の勤務形態と仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援

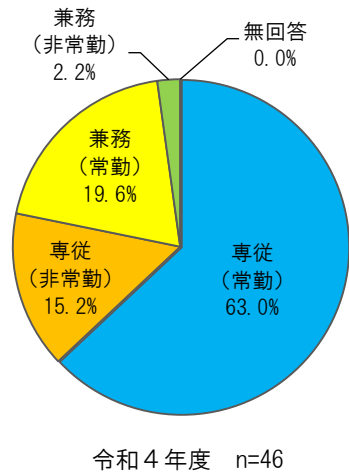
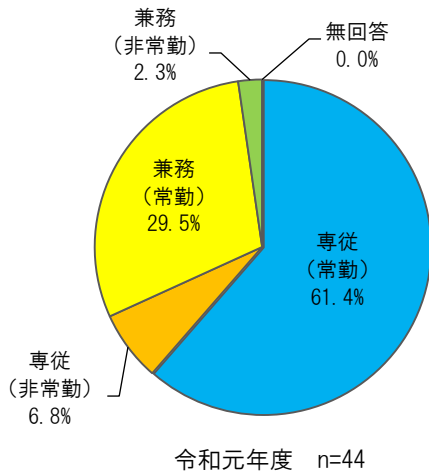
○主な介護者の現在の勤務形態は「フルタイムで働いている」は28.1%、「パートタイムで働いている」(19.1%)を合わせた47.2%の方が就労しています。
 ○仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援をみると、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」(32.8%)が最も高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」(26.2%)、「介護をしている従業員への経済的な支援」(21.9%)となっています。



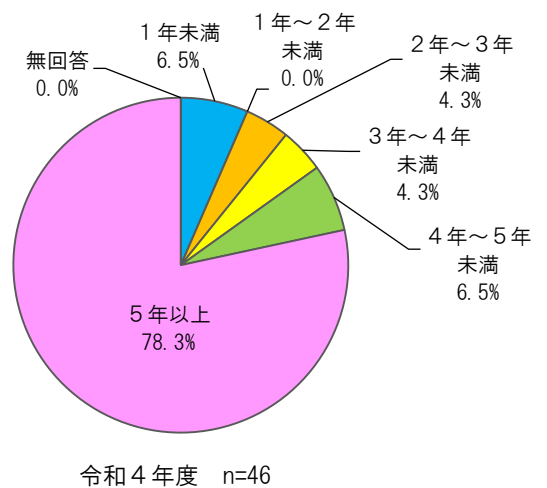
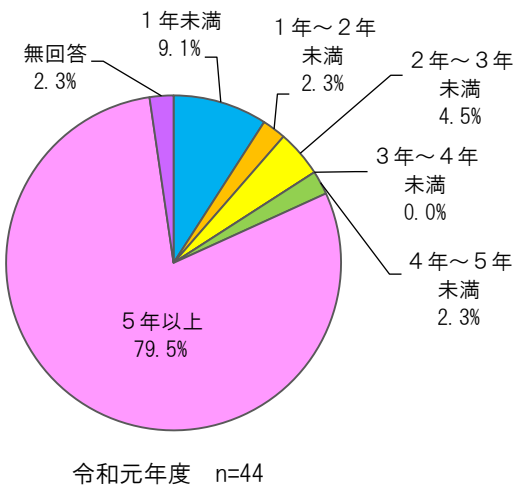
(3) 介護支援専門員アンケート調査

①回答者の属性

■勤務実態

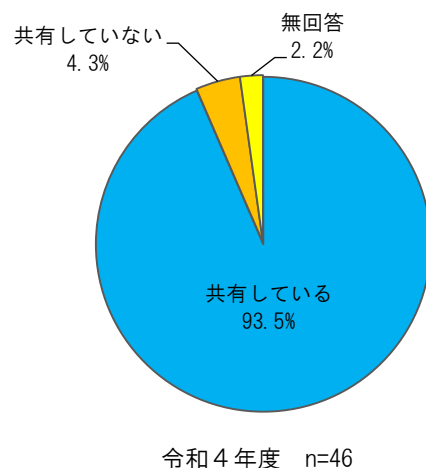
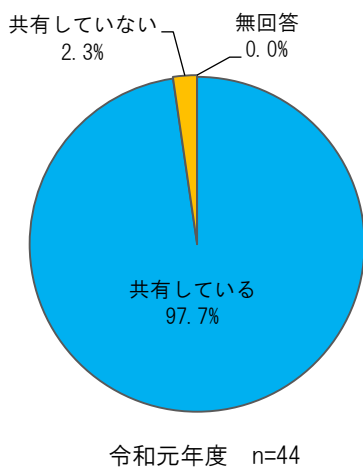


■実務経験年数



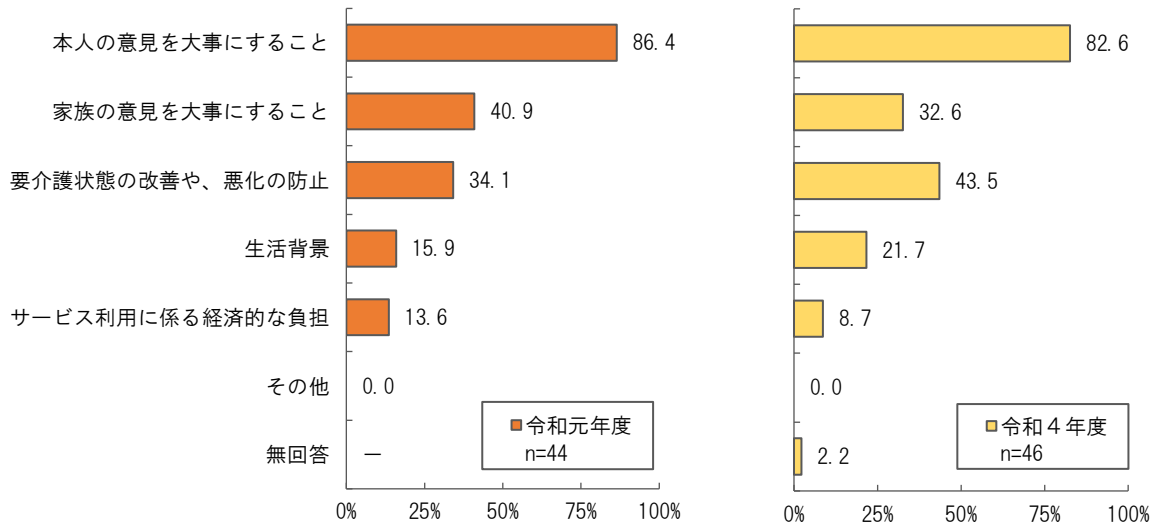
②ケアプランに係る情報の共有の有無

○勤務する事業所内においてケアプランに係る情報の共有をしているかをみると、「共有している」(93.5%)「共有していない」(4.3%)となっています。
○前回調査と比較すると、「共有している」が低くなっています。



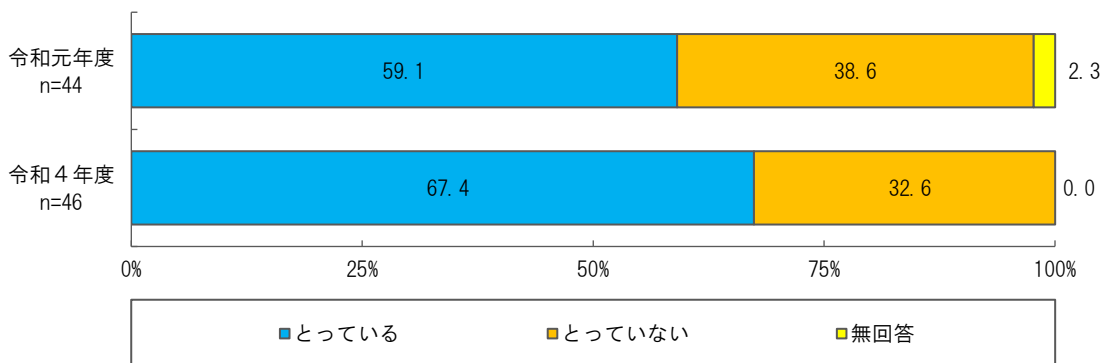
③ケアプランを立てるにあたり気をつけていること

○ケアプランを立てるにあたり気をつけていることをみると、「本人の意見を大事にすること」(82.6%)が最も高く、次いで「要介護状態の改善や、悪化の防止」(43.5%)、「家族の意見を大事にすること」(32.6%)となっています。
○前回調査と比較すると、「要介護状態の改善や、悪化の防止」、「生活背景」が増加しています。



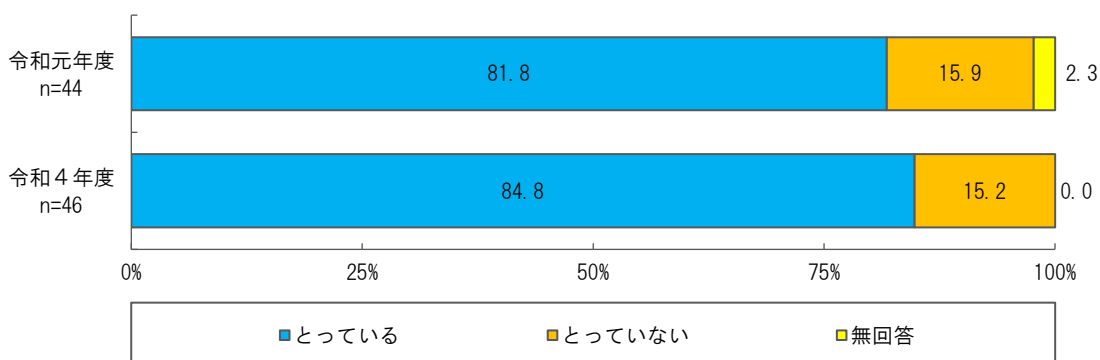
④主治医と連絡をとっているか

○利用者の病状や健康状態について、主治医と連絡をとっているかをみると、「とっている」(67.4%)、「とっていない」(32.6%)となっています。
○前回調査と比較すると、「とっている」が増加しています。



⑤地域包括支援センターと連携をとっているか

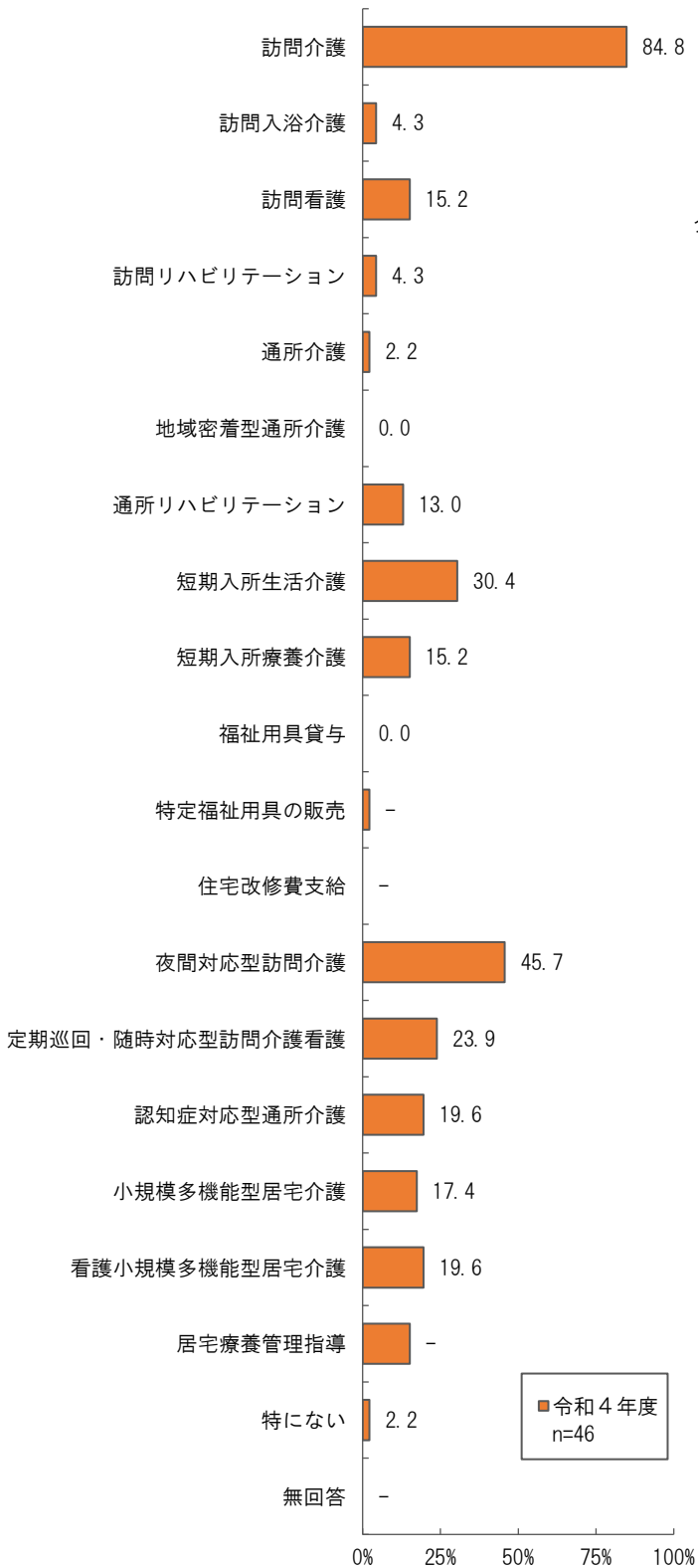
○介護サービスだけでは処遇が困難な場合、地域包括支援センターと連携をとっているかをみると、「とっている」(84.8%)、「とっていない」(15.2%)となっています。
○前回調査と比較すると、「とっている」が増加しています。



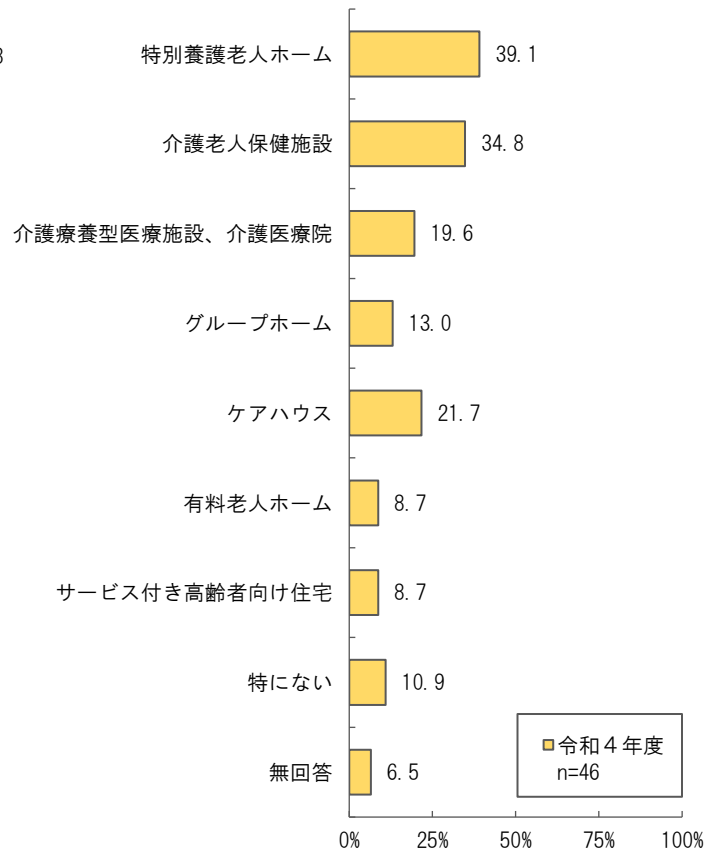
⑥供給が不足していると感じるサービス

- 介護保険対象の居宅サービスの中で、供給が不足していると感じるサービスをみると、「訪問介護」(84.8%)が最も高く、次いで「夜間対応型訪問介護」(45.7%)、「短期入所生活介護」(30.4%)となっています。
- 介護保険対象の施設・居住系サービスの中で、供給が不足していると感じるサービスをみると、「特別養護老人ホーム」(39.1%)が最も高く、次いで「介護老人保健施設」(34.8%)、「ケアハウス」(21.7%)となっています。
- また、「サービス付き高齢者向け住宅」に関連するその他意見として「低料金」が挙がっています。

■居宅サービス

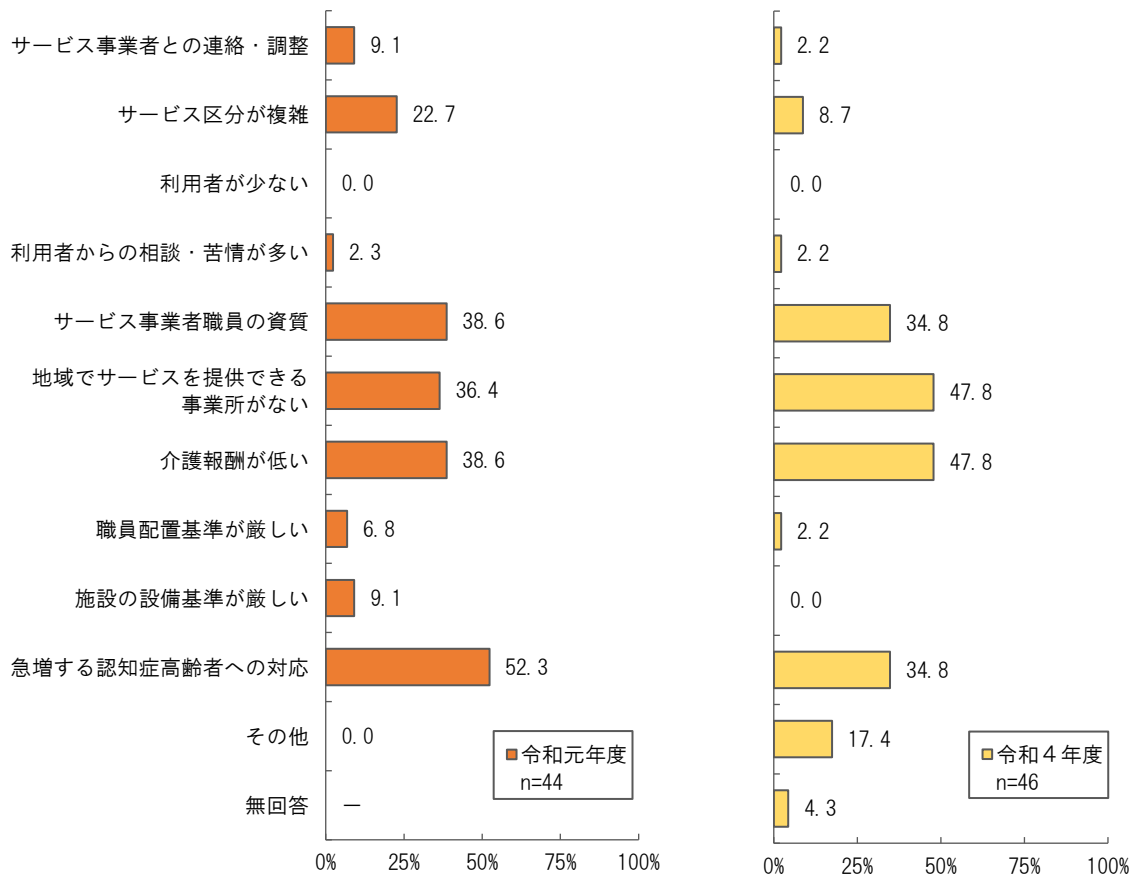


■施設・居住系サービス



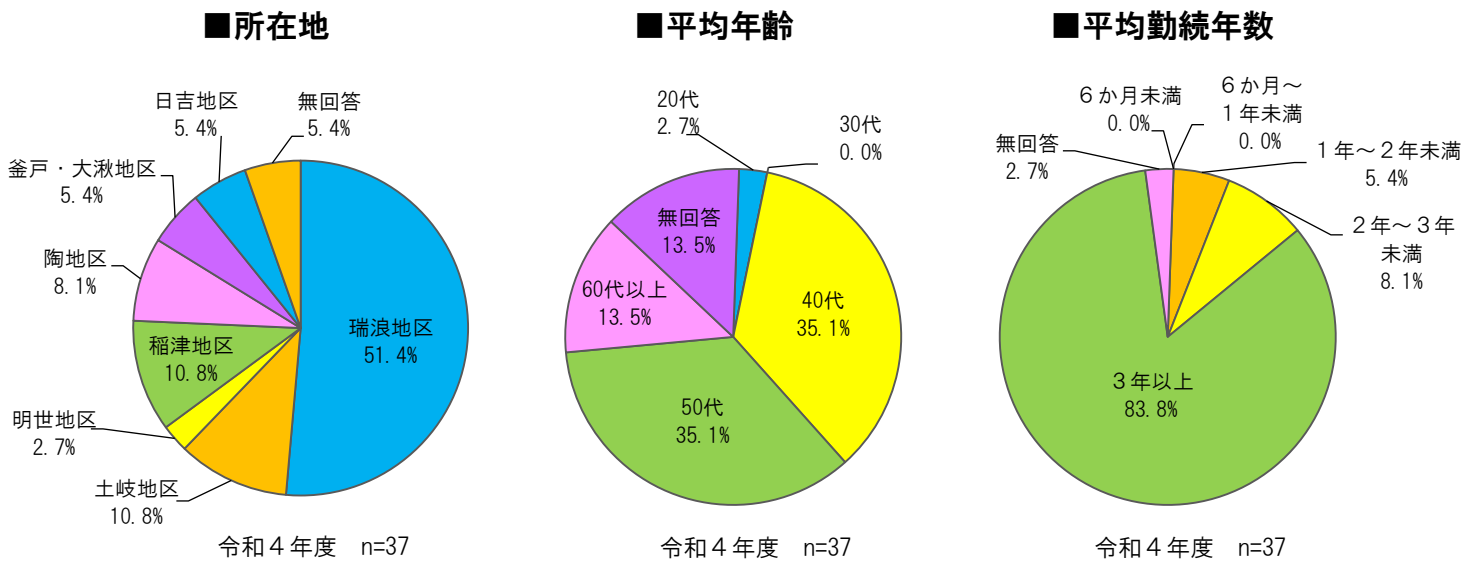
⑦介護保険制度の中で問題と感ずること

- 介護保険制度の中で問題と感ずることについてみると、「地域でサービスを提供できる事業所がない」、「介護報酬が低い」(各 47.8%) が最も高く、次いで「サービス事業者職員の資質」、「急増する認知症高齢者への対応」(各 34.8%) となっています。
- 「その他」の意見として、「事業対象者の見直し」、「相談窓口の強化」、「認定調査の判断基準」、「制度が複雑」、「介護支援専門員、ヘルパー不足」が挙げられています。
- 前回調査と比較すると、「地域でサービスを提供できる事業所がない」、「介護報酬が低い」が増加しています。



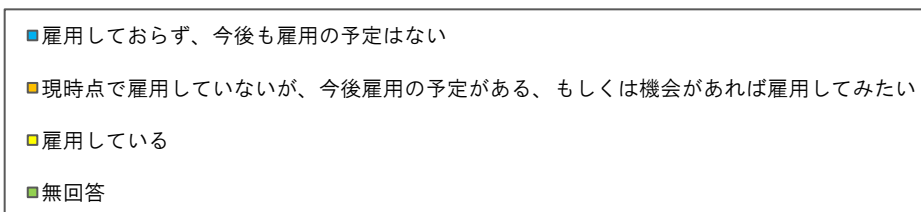
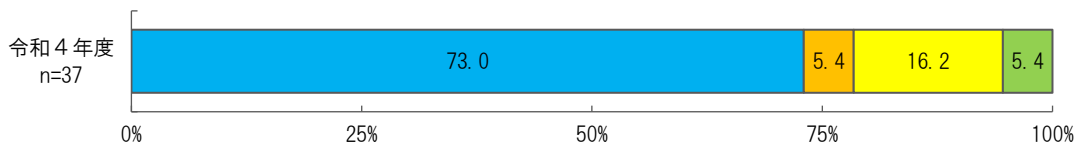
(4) 介護事業所アンケート調査

①回答対象事業所の属性



②外国人介護職員の雇用状況

○外国人介護職員の雇用の状況を見ると、「雇用しておらず、今後も雇用の予定はない」が73.0%、「現時点で雇用していないが、今後雇用の予定がある、もしくは機会があれば雇用してみたい」が5.4%、「雇用している」が16.2%となっています。

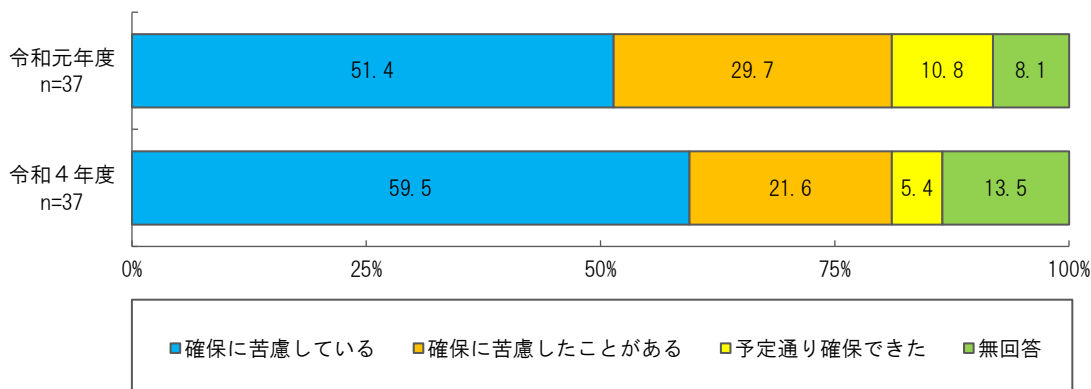


■外国人介護職員の人数と在留資格

在留資格等	人数
①EPA（経済連携協定）による受け入れ	22
②在留資格「介護」	2
③技能実習生（介護職種）	8
④在留資格「特定技能1号」	7
⑤外国人留学生	0
⑥身分に基づく在留者（定住者（主に日系人）、永住者、日本人の配偶者等）	1
⑦その他	0

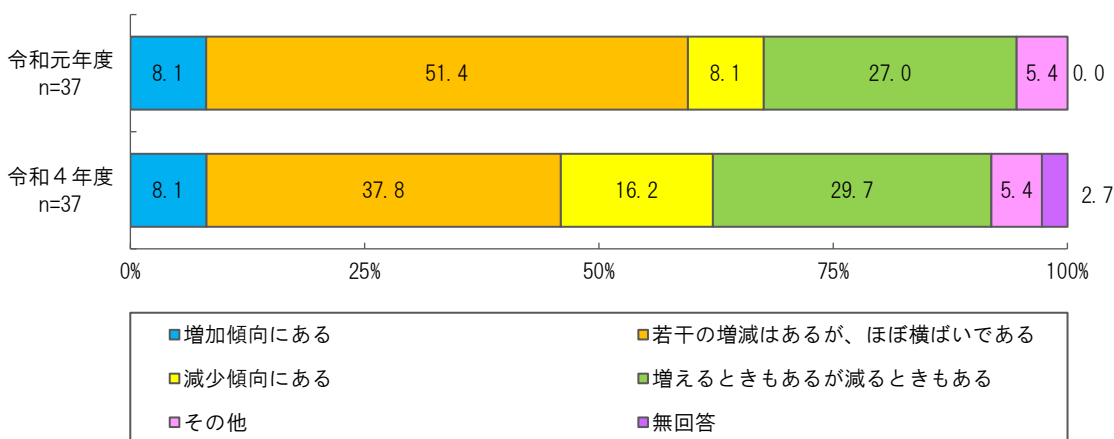
③介護職員の確保について

○介護職員の確保について苦慮したことについてみると、「確保に苦慮している」が59.5%、「確保に苦慮したことがある」が21.6%、「予定通り確保できた」が5.4%となっています。
○前回調査と比較すると、「確保に苦慮している」が増加しています。



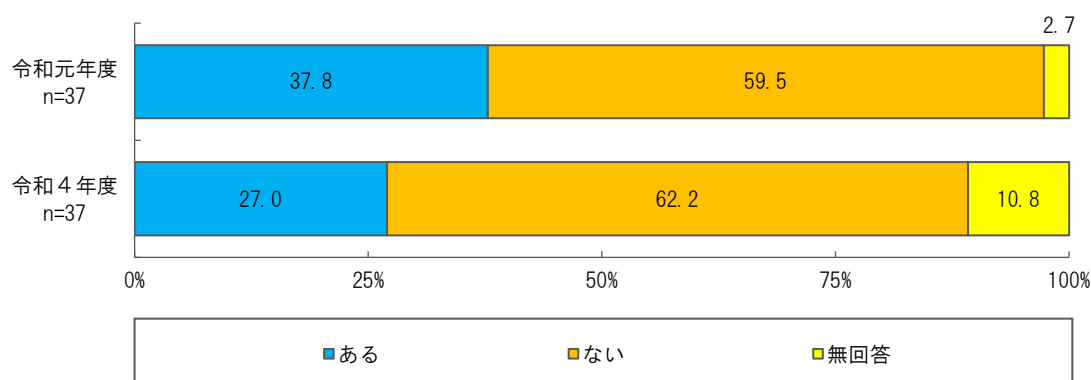
④利用者数について

○事業所の利用者数についてみると、「若干の増減はあるが、ほぼ横ばいである」(37.8%)が最も高く、次いで「増えるときもあるが減るときもある」(29.7%)となっています。
○前回調査と比較すると、「若干の増減はあるが、ほぼ横ばいである」が減少し、「減少傾向にある」が増加しています。



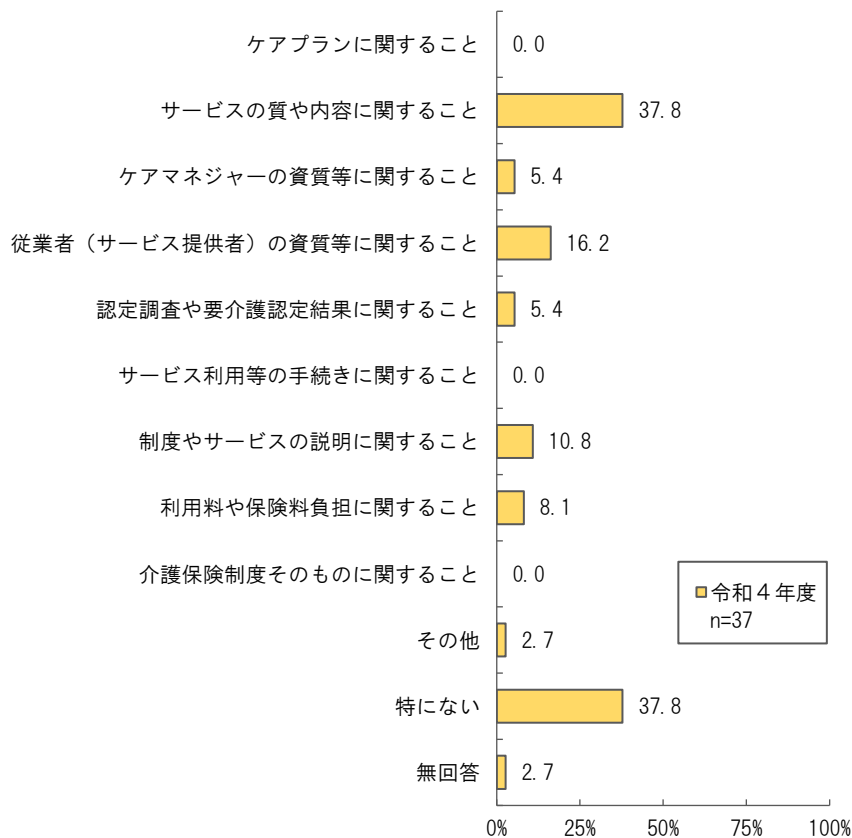
⑤地域包括支援センターへの相談経験

○地域包括支援センターへの相談経験についてみると、「ある」が27.0%、「ない」が62.2%となっています。
○前回調査と比較すると、「ある」が減少しています。



⑥利用者や家族からあげられる苦情について

○利用者や家族からあげられる苦情の内容についてみると、「サービスの質や内容に関すること」(37.8%)が最も高く、次いで「従業者(サービス提供者)の資質等に関すること」(16.2%)となっています。また、「特にない」が37.8%となっています。



⑦介護給付・予防給付適正化に向けて大切なこと

○介護給付や介護予防給付の適正化に向けて、どのようなことが大切だと思うかについてみると、「要介護認定調査の精度を高める」(43.2%)が最も高く、次いで「介護支援専門員の講習の充実」(27.0%)、「利用者に介護給付費を通知する」、「ケアプランの評価体制の確立」(各21.6%)となっています。

